

の微力を以てしては十分の材料を集め正確の結論に到着する事困難なり。従て以下本論中不正確なる論據により斷斷を取てしたる點無きにしも非ずと雖も主として吾人の集め得たる若は調製したる研究材料を羅列し一般讀者の注意を喚起し以て研究者の參考に供し其の判斷に委するの方法に出でたり。讀者の御諒恕を乞ふ所以なり。

第二章 船員の供給

本章は海員の養成方法及び其の現在員數、其の内容、其他増減の傾向等を研究するを以て目的とす。

第一 現在船員數に其の内容 (大正五年十二月末)

(一) 船員數

1. 總數

内譯 高級船員	二五六、九一五人
内外國人	三四、三二七人
下級船員	三五一人
	二二二、五八八人

2. 免狀種類別

甲種船長	一、六八一一人
同 一運	九七三人

同 二運	一、四九三人
乙種船長	八六四人
同 一運	一、七八六人
同 二運	三、六八五人
丙種船長	一〇三人
同 運	一三、八四七人
機關長	一、三三四人
一 機	二、三三三人
二 機	一、八三二人
三 機	四、三九六人
計	三四、三二七人

(二) 甲種免狀受有者の出身別

甲種免狀受有者(甲種船長、同一運、同二運、機關長、一機)は前表に依るときは七千八百十四人なり。之を出身別に表示すれば左の如し。

一、東京商船學校